

公的資金補償金免除繰上償還に係る公営企業経営健全化計画

I 基本的事項

1 事業の概要

特別会計名：昭和村簡易水道事業特別会計

事業名	昭和村簡易水道事業		
事業開始年月日	昭和39年6月30日	地方公営企業法の適用・非適用	<input type="checkbox"/> 適用 <input checked="" type="checkbox"/> 非適用
団体名*	昭和村	職員数* (H19. 4. 1現在)	1名
構成団体名			

注1 事業を実施する団体が一部事務組合等（一部事務組合、広域連合及び企業団をいう。以下同じ。）の場合は、「団体名」欄に一部事務組合等の名称を記載し、「構成団体名」欄にその構成団体名を列記すること。

2 「職員数」欄には、当該事業に従事する全職員数を記載すること。

2 財政指標等

資本費	524 (H18)	公営企業債現在高 (百万円)	590 (H18)
累積欠損金 (百万円)	0 (H18)	利益剰余金又は積立金 (百万円)	0 (H18)
不良債務 (百万円)	0 (H18)	財政力指数*	0.11 (H18)
資金不足比率 (%)		実質公債費比率* (%)	16.0 (H19)
		経常収支比率* (%)	93.9 (H18)

注 平成17年度（又は平成18年度）の公営企業決算状況調査、地方財政状況調査等の報告数値を記入すること。
 なお、財政力指数、実質公債費比率及び経常収支比率は、当該事業の経営主体である地方公共団体の数値を記載し、当該事業が一部事務組合等により経営されている場合は、その構成団体の各数値を加重平均したものを記載すること。（ただし、旧資金運用部資金及び旧簡易生命保険資金について対象としない財政力1.0以上の団体の区分については構成団体の中で最も低い財政力指数を記載すること。）

3 合併市町村等における公営企業の統合等の内容

<input type="checkbox"/> 新法による合併市町村、合併予定市町村における公営企業の統合等の内容 <input type="checkbox"/> 旧法による合併市町村における公営企業の統合等の内容 <input checked="" type="checkbox"/> 該当なし
〔合併期日：平成〇年〇月〇日 合併前市町村： 〕

注1 「新法による合併市町村、合併予定市町村」とは、市町村の合併の特例等に関する法律（平成16年法律第59号）第2条第2項に規定する合併市町村及び同条第1項に規定する市町村の合併をしようとする市町村で地方自治法（昭和22年法律第67号）第7条第7項の規定による告示のあったものをいう。

2 「旧法による合併市町村」とは、市町村の合併の特例に関する法律（昭和40年法律第6号）第2条第2項に規定する合併市町村（平成7年4月1日以後に同条第1項に規定する市町村の合併により設置されたものに限る。）をいう。

3 にレを付けた上で内容を記載すること。

4 公営企業経営健全化計画の基本方針等

区分	内容
計画名	昭和村簡易水道事業特別会計経営健全計画
計画期間	平成19年度～平成23年度
計画策定責任者	昭和村長 馬場孝允
既存計画との関係	昭和村行財政集中改革プラン
公表の方法等	平成20年3月議会で説明予定。併せて村広報誌等にて公表。
基本方針	料金の改定による収入の増、並びに維持管理費のコスト縮減、公債費高金利分の圧縮等により普通会計からの繰入金を減らすことを目的とする。

注 計画期間については、原則として平成19年度から23年度までの5か年とすること。

I 基本的事項（つづき）

5 繰上償還希望額等

（単位：百万円）

区 分		年利5%以上6%未満	年利6%以上7%未満	年利7%以上	合 計
旧資金運用部資金	繰上償還希望額			81	81
	補償金免除額			15	15
旧簡易生命保険資金	繰上償還希望額				
公営企業金融公庫資金	繰上償還希望額				

注 「旧資金運用部資金」の「補償金免除額」欄は、各地方公共団体の「繰上償還希望額」欄の額に対応する額として、計画提出前の一定基準日の金利動向に応じて算出された予定額であり、各地方公共団体の所在地を管轄とする財務省財務局・財務事務所に予め相談・調整の上、確認した補償金免除（見込）額を記入すること。

6 平成19年度末における年利5%以上の地方債現在高の状況

【旧資金運用部資金】

（単位：千円）

事業債名		年利5%以上6%未満 (平成21年度末残高)	年利6%以上7%未満 (平成20年度末残高)	年利7%以上 (平成19年度末残高)	合 計
公 営 企 業 債	昭和56年度簡水債（特別地方債）			7,090	7,090
	昭和57年度簡水債（特別地方債）			29,424	29,424
	昭和58年度簡水債			40,122	40,122
	昭和59年度簡水債			4,542	4,542
	昭和61年度簡水債	16,536			16,536
	昭和63年度簡水債	3,412			3,412
合 計		19,948		81,178	101,126
一 般 会 計 再 掲	※上記のうち				
	再掲				
合 計 (B)					
公営企業で負担するもの (A)-(B)					

【旧簡易生命保険資金】

（単位：千円）

事業債名		年利5%以上6%未満 (平成21年度末残高)	年利6%以上7%未満 (平成21年度末残高)	年利7%以上 (平成20年度9月期残高)	合 計
公 営 企 業 債					
合 計 (A)					
一 般 会 計 再 掲	※上記のうち				
	再掲				
合 計 (B)					
公営企業で負担するもの (A)-(B)					

【公営企業金融公庫資金】

（単位：千円）

事業債名		年利5%以上6%未満 (平成20年度9月期残高)	年利6%以上7%未満 (平成20年度9月期残高)	年利7%以上 (平成19年度末残高)	合 計
公 営 企 業 債					
合 計 (A)					
一 般 会 計 再 掲	※上記のうち				
	再掲				
合 計 (B)					
公営企業で負担するもの (A)-(B)					

注1 地方債計画の区分ごとに記入すること。
2 必要に応じて行を追加して記入すること。

II 財務状況の分析

区 分	内 容				
財務上の特徴	料金等の改定により収入が増加するものの、公債費償還にかかる普通会計からの繰入金割合が高い。				
経営課題	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="424 674 628 719">課題 ①</td> <td data-bbox="628 674 1473 719">料金の改定</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="424 719 1473 842">隣接町村の料金を参考に改定をしていることから、隣接町村の動向を見ながら段階的な料金の見直しが必要。</td> </tr> </table>	課題 ①	料金の改定	隣接町村の料金を参考に改定をしていることから、隣接町村の動向を見ながら段階的な料金の見直しが必要。	
	課題 ①	料金の改定			
	隣接町村の料金を参考に改定をしていることから、隣接町村の動向を見ながら段階的な料金の見直しが必要。				
	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="424 842 628 887">課題 ②</td> <td data-bbox="628 842 1473 887">維持管理費用の縮減</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="424 887 1473 1010">厳しい財政状況下で毎年経費の節減には努力しているが、今後も業務内容を精査し経費縮減に努める。</td> </tr> </table>	課題 ②	維持管理費用の縮減	厳しい財政状況下で毎年経費の節減には努力しているが、今後も業務内容を精査し経費縮減に努める。	
	課題 ②	維持管理費用の縮減			
厳しい財政状況下で毎年経費の節減には努力しているが、今後も業務内容を精査し経費縮減に努める。					
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="424 1010 628 1055">課題 ③</td> <td data-bbox="628 1010 1473 1055"></td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="424 1055 1473 1178"></td> </tr> </table>	課題 ③				
課題 ③					
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="424 1178 628 1223">課題 ④</td> <td data-bbox="628 1178 1473 1223"></td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="424 1223 1473 1346"></td> </tr> </table>	課題 ④				
課題 ④					
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="424 1346 628 1391">課題 ⑤</td> <td data-bbox="628 1346 1473 1391"></td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="424 1391 1473 1523"></td> </tr> </table>	課題 ⑤				
課題 ⑤					
留意事項					

注1 「財務上の特徴」欄は、事業環境や地域特性等を踏まえて記載すること。また、経営指標等について経年推移や類似団体との水準比較などを行い、各自工夫の上説明すること。

2 「経営課題」欄は、料金水準の適正化、資産の有効活用、給与水準・定員管理の適正合理化、維持管理費等サービス供給コストの節減合理化、資本投下の抑制、民間的経営手法等の導入等、団体が認識する経営上の課題について、優先度の高いものから順に記載する。また、経営課題と認識する理由を類似団体等との比較を交えながら具体的に説明すること。

3 「留意事項」欄は、「経営課題」で取り上げた項目の他に、経営に当たって補足すべき事項を記載すること。

4 必要に応じて行を追加して記入すること。

Ⅲ 今後の経営状況の見通し（②法非適用企業）

（1）収益的収支、資本的収支

（単位：千円、％）

区 分		年 度	平成14年度 （計画前5年度） （ 決 算 ）	平成15年度 （計画前4年度） （ 決 算 ）	平成16年度 （計画前3年度） （ 決 算 ）	平成17年度 （計画前々年度） （ 決 算 ）	平成18年度 （計画前年度） （ 決 算 見 込 ）	平成19年度 （計画初年度）	平成20年度 （計画第2年度）	平成21年度 （計画第3年度）	平成22年度 （計画第4年度）	平成23年度 （計画第5年度）	
収益的 収 入	1 総 収 益 (A)	1 総 収 益 (A)	77,896	63,411	67,317	67,052	64,350	63,631	58,424	57,394	58,195	57,716	
		(1) 営 業 収 益 (B)	(1) 営 業 収 益 (B)	43,861	28,908	31,268	24,492	26,807	26,930	27,755	27,655	28,555	29,555
			ア 料 金 収 入	24,789	23,833	24,060	23,913	25,538	26,875	26,700	26,600	26,500	27,500
			イ 受 託 工 事 収 益 (C)	19,031	5,053	7,149				1,000	1,000	2,000	2,000
		ウ そ の 他	41	22	59	579	1,269	55	55	55	55	55	
		(2) 営 業 外 収 益	(2) 営 業 外 収 益	34,035	34,503	36,049	42,560	37,543	36,701	30,669	29,739	29,640	28,161
			ア 他 会 計 繰 入 金	34,035	34,503	36,049	42,560	37,543	36,701	30,669	29,739	29,640	28,161
	イ そ の 他												
	2 総 費 用 (D)	2 総 費 用 (D)	65,655	48,588	52,819	48,882	46,406	43,782	37,316	36,287	36,210	36,210	35,142
		(1) 営 業 費 用	(1) 営 業 費 用	38,995	23,223	27,373	24,449	24,305	23,292	22,627	22,627	23,627	23,627
			ア 職 員 給 与 費	3,593	4,653	4,991	7,773	7,857	8,130	6,127	6,127	6,127	6,127
			ウ ち 退 職 手 当										
		イ そ の 他	9,149	11,745	12,097	16,676	16,448	15,162	16,500	16,500	17,500	17,500	
		(2) 営 業 外 費 用	(2) 営 業 外 費 用	26,660	25,365	25,446	24,433	22,101	20,490	14,689	13,660	12,583	11,515
ア 支 払 利 息			26,434	25,300	24,737	23,394	21,760	20,125	14,329	13,300	12,223	11,115	
ウ ち 一 時 借 入 金 利 息													
イ そ の 他	226	65	709	1,039	341	365	360	360	360	360	400		
収益的 収 支	3 収 支 差 引 (A)-(D) (E)	12,241	14,823	14,498	18,170	17,944	19,849	21,108	21,107	21,985	22,574		
	1 資 本 的 収 入 (F)	1 資 本 的 収 入 (F)	84,239	112,842	15,060	17,634	18,210	19,953	21,213	21,220	22,101	22,696	
		(1) 地 方 債	(1) 地 方 債	42,300	62,700								
			(2) 他 会 計 補 助 金	13,736	16,026	15,060	17,634	18,210	19,953	21,213	21,220	22,101	22,696
		(3) 他 会 計 借 入 金											
		(4) 固 定 資 産 売 却 代 金											
		(5) 国 (都 道 府 県) 補 助 金	28,203	34,116									
		(6) 工 事 負 担 金											
		(7) そ の 他											
	2 資 本 的 支 出 (G)	2 資 本 的 支 出 (G)	96,404	127,491	30,029	35,690	36,282	39,802	42,321	42,327	44,086	45,270	
		(1) 建 設 改 良 費	(1) 建 設 改 良 費	71,759	97,714								
			ウ ち 職 員 給 与 費		11								
		(2) 地 方 債 償 還 金 (H)	24,645	29,777	30,039	35,690	36,282	39,802	42,321	42,327	44,086	45,270	
		(3) 他 会 計 長 期 借 入 金 返 還 金											
(4) 他 会 計 へ の 繰 出 金													
(5) そ の 他													
資本的 収 支	3 収 支 差 引 (F)-(G) (I)	△12,165	△14,649	△14,969	△18,056	△18,072	△ 19,849	△ 21,108	△ 21,107	△ 21,985	△ 22,574		

(3) 経営指標等

(単位:%)

		平成14年度 (計画前5年度) (決算)	平成15年度 (計画前4年度) (決算)	平成16年度 (計画前3年度) (決算)	平成17年度 (計画前々年度) (決算)	平成18年度 (計画前年度) (決算見込)	平成19年度 (計画初年度)	平成20年度 (計画第2年度)	平成21年度 (計画第3年度)	平成22年度 (計画第4年度)	平成23年度 (計画第5年度)	
資金不足比率	(%) (再掲)											
料金回収率※	(%)	39	33	33	28	31	32	34	34	34	35	
総収支比率(法適用)	(%)											
経常収支比率(法適用)	(%)											
営業収支比率(法適用)	(%)											
累積欠損金比率(法適用)	(%) (再掲)											
収益的収支比率(法非適用)	(%) (再掲)	86	81	81	79	78	76	73	73	73	72	
不良債務比率(法適用)又は 赤字比率(法非適用)	(%) (再掲)											
繰入金比率	収益的収入分	(%)	44	54	54	64	58	58	53	52	51	49
	うち基準内繰入金	(%)	38	47	46	45	49	48	48	45	43	44
	うち基準外繰入金	(%)	6	8	7	18	9	9	5	7	8	5
	うち料金収入に計上すべき繰入等	(%)	6	8	7	18	9	9	5	7	8	5
	うち赤字補てん的なもの	(%)										
	資本的収入分	(%)	16	14	100	100	100	100	100	100	100	100
	うち基準内繰入金	(%)	12	9	68	76	77	74	73	71	71	73
	うち基準外繰入金	(%)	5	5	32	24	23	26	27	29	29	27
うち赤字補てん的なもの	(%)											

注1 上記の各指標の算出方法については、次のとおりであること。

(1) 資金不足比率 (%)

ア 地方公営企業法適用企業の場合＝地方財政法施行令第19条第1項により算定した資金の不足額 / (営業収益－受託工事収益) × 100

イ 地方公営企業法非適用企業の場合＝地方財政法施行令第20条第1項により算定した資金の不足額 / (営業収益－受託工事収益) × 100

(2) 総収支比率 (%) = 総収益 / 総費用 × 100

(3) 経常収支比率 (%) = 経常収益 / 経常費用 × 100

(4) 営業収支比率 (%) = (営業収益－受託工事収益) / (営業費用－受託工事費用) × 100

(5) 累積欠損金比率 (%) = 累積欠損金 / (営業収益－受託工事収益) × 100

(6) 収益的収支比率 (%) = 総収益 / (総費用＋地方債償還金) × 100

(7) 不良債務比率(又は赤字比率) (%) = 不良債務(又は実質赤字額) / (営業収益－受託工事収益) × 100

(8) 繰入金比率 (%) = 収益的収入に属する他会計繰入金(又は資本的収入に属する他会計繰入金) / 収益的収入(又は資本的収入) × 100

2 上記指標のうち「料金回収率」は、水道事業(簡易水道事業を含む)、工業用水道事業及び下水道事業(下水道事業にあっては使用料回収率)について記載すること。

(1) 水道事業、工業用水道事業に係る料金回収率の算出方法

・料金回収率 (%) = 供給単価※1 / 給水原価※2 × 100

※1 供給単価 (円/m³) = 給水収益 / 年間総有収水量(工業用水道事業にあっては料金算定に係るもの)

※2 給水原価 (円/m³) = (経常費用－(受託工事費＋材料及び不用品売却原価＋附帯事業費＋基準内繰入金(水道事業のみ))) / 年間総有収水量(工業用水道事業にあっては料金算定に係るもの)

但し、簡易水道事業については下記によるものとする。

ア 地方公営企業法適用企業の場合 = (経常費用－(受託工事費＋材料及び不用品売却原価＋附帯事業費＋基準内繰入金＋減価償却費)＋企業債償還金) / 年間総有収水量

イ 地方公営企業法非適用企業の場合 = (総費用－(受託工事費＋基準内繰入金)＋地方債償還金) / 年間総有収水量

(2) 下水道事業に係る使用料回収率の算出方法

・使用料回収率 (%) = 使用料収入 / 汚水処理費 × 100

(4) 収支見通し策定の前提条件

条件項目	収支見通し策定に当たっての考え方（前提条件）
1 料金設定の考え方、料金収入の見込み	財政規模が比較的近い近隣町村の料金を参考に簡易水道運営委員会の中で審議し、料金を設定している。尚、見直しの時期については3～5年を目安にしており段階的な料金の値上げにより料金収入増が見込まれる。
2 他会計繰入金の見込み	起債の繰上償還に伴い利子額が減となり繰入金が減少する見込み。
3 大規模投資の有無、資産売却等による収入の見込み	なし
4 その他収支見通し策定に当たって前提としたもの	

注1 収支見通しを策定するに当たって、前提として用いた各種仮定（前提条件）について、各区分に従い、それぞれその具体的な考え方を記入すること。

2 必要に応じて行を追加して記入すること。

IV 経営健全化に関する施策

項 目	具 体 的 内 容
<p>1 行革推進法を上回る職員数の純減や人件費の総額の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地方公務員の職員数の純減の状況 ○ 給与のあり方 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与構造の見直し、地域手当のあり方 ◇ 技能労務職員に相当する職種に従事する職員等の給与のあり方 ◇ 退職時特昇等退職手当のあり方 ◇ 福利厚生事業のあり方 	<p>昭和村行財政集中改革プランに基づき職員配置を行っていくが、簡易水道特別会計事業においては以前から職員1名体制のため今後も同体制で続く。なお、行財政改革に伴う係の統廃合で、担当職員は係長職から係員に変更し、人件費の抑制を図っていく。</p> <p>国の基準に準じて給与構造の見直しを行っているが、昭和村独自に期末手当0.5月分を減額している。また、地域手当については支給していない。</p> <p>技能労務職は未採用で今後においても採用計画は無い</p> <p>退職時の特別昇給は実施していない。</p> <p>共済組合に加入し、事業主負担は短期給付が4.25%(3.4%)、長期給付が9.066%(7.253%)で行っている。 ※()内数字は給料以外の期末手当等に係る負担割合。</p>
<p>2 物件費の削減、指定管理者制度の活用等 民間委託の推進やPFIの活用等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 維持管理費等の縮減その他経営効率化に向けた取組 ○ 指定管理者制度の活用等民間委託の推進やPFIの活用 	<p>修繕等小規模工事については、平成19年度より材料のみ購入して直営で工事を実施している。 (H19削減額～資材費を除く土工等(掘削・埋戻し・管路仮回し・本復旧)140m分の工事請負相当額△985千円を直営工事にて削減)</p> <p>本村のみで民間委託等を考えた場合、委託料等割高になることが予想されるため、近隣町村との連携において実施可能かまたは、委託料の額は適正か等検討する必要がある。</p>

IV 経営健全化に関する施策（つづき）

項 目	具 体 的 内 容
3 コスト等に見合った適正な料金水準への引上げ、売却可能資産の処分等による歳入の確保	① 平成19年度に料金を改定(12.3%増)し、1.3百万の収入増の確保を図った。
○ 料金水準が著しく低い団体にあつては、コスト等に見合った適正な料金水準への引き上げに向けた取組	① 平成23年度に料金改定(10%程度増)し百万円程度の収入増を図る。 ② 修繕等小規模工事については引き続き原材料(資材)の購入のみで直営で実施していく。
4 経営健全化や財務状況に関する情報公開の推進と行政評価の導入	
○ 経営健全化や財務状況に関する情報公開	普通会計に準ずる。
○ 行政評価の導入	普通会計に準ずる。
5 その他	

注1 上記区分に応じ、「II 財務状況の分析」の「経営課題」に掲げた各課題に対応する施策を具体的に記入すること。その際、どの課題に対応する施策が明らかとなるよう、IIに付した課題番号を引用しつつ、記入すること。

2 上記に記入した各種施策のうち、当該取組の効果として改善額の算出が可能な項目については、「V 繰上償還に伴う経営改革効果」の「年度別目標等」にその改善額を記入すること。なお、当該改善額が対前年度との比較により算出できない項目（資産売却収入・工事コスト縮減など）については、当該改善額の算出方法も併せて上記各欄に記入すること。

3 必要に応じて行を追加して記入すること。

V 繰上償還に伴う経営改革促進効果

1 主な課題と取組み及び目標

課題	取組み及び目標
1 職員数の純減や人件費の総額の削減	職員は1名体制のため、人件費については普通会計に準じて縮減に努める。
2 コスト等に見合った適正な料金水準への引き上げ	平成23年度に10%程度の料金改定増を図り、収入の確保に努める。
3 一般会計等からの基準外繰出しの解消等	公債費償還に伴う繰入金が増えるため、早期償還に努める。
4 維持管理費用の縮減	修繕等小規模工事については、直営にて実施し縮減に努める。

注1 上記各項目には、IIで採り上げた経営課題に対応する取組としてIVに掲げた経営健全化に関する施策のうち、それぞれ各項目に該当するものについて、その対応関係が分かるように記入すること。

2 必要に応じて行を追加して記入すること。

2 年度別目標等 ※ 次頁以下(1)から(5)までの各事業別様式を参考に、以下の考え方に沿って策定すること。

(各事業共通留意事項)

1. 次頁以下の各事業別様式は、「年度別目標」を策定するに当たって参考となるよう例示的な様式を示したものであり、2に掲げた項目以外は必ずしも全ての項目に記入を要するものではなく、各団体の各事業の状況にあわせて記入可能な項目のみ記入し又は独自の取組に応じた項目を立てて記入することは差し支えないものであること。
2. 各事業別様式は参考例示ではあるが、各様式中の「目標又は実績」欄の項目のうち、職員数、行政管理経費(人件費、物件費、維持補修費等)に該当する項目並びに累積欠損金比率及び企業債現在高は、年度別目標策定に際して必須項目とされているので漏れがないよう留意すること。なお、これらの項目のうち、職員数、行政管理経費については、各団体(事業)の取組状況に応じて、適宜、細分化(例:職員数→職種別に区分、正職員と臨時職員とを分離計上等)することは差し支えないこと。
3. 「目標又は実績」欄の項目中、「職員数」については、前年度との比較によりその増減数を各年度の「増減数」欄に計上するとともに、計画期間中の「増減数」の合計は「計画合計」欄に計上し、計画前5年間の「増減数」の合計は「計画前5年間実績」欄に計上すること。
4. 「目標又は実績」欄の項目の見直し施策実施に係る「改善額」は、原則として、当該見直し施策実施年度の前年度との比較により算出し、その改善効果がその後も継続するものとして、その後の各年度の改善額を計上すること。
5. 4による「改善額」が対前年度との比較により算出できない項目、その改善効果が単年度に限られる項目(資産売却益、工事コスト縮減等)については、当該改善額のみ当該見直し施策の実施年度の「改善額」欄に計上すること。またその場合の改善額の算出方法について、IVの当該施策に係る「具体的内容」欄に併せて記入すること。
6. 計画期間中に実施した見直し施策に係る「改善額」の合計については「計画合計」欄に計上すること。また、計画前5年間に実施した見直し施策に係る「改善額」の合計については「計画前5年間実績」欄に計上すること。
7. 「改善額 合計」欄及び「計画前5年間改善額 合計」欄には、それぞれの期間に係る人件費(退職手当以外の職員給与費)その他改善額を計上することが可能なものの合計(「計画合計」及び「計画前5年間実績」それぞれの合計)を記入すること。その際、同一項目に係る内訳に相当するもの等を重複計上することのないよう留意すること。
8. 「(参考) 補償金免除額」欄に記入する「補償金免除額」とは、計画提出前の一定基準日の金利動向に応じて算出された予定額(補償金免除(見込)額)であり、Iの「5 繰上償還希望額等」に記入した「旧資金運用部資金」の「繰上償還希望額」に対応する「補償金免除額」の「合計」欄の額を転記すること。
9. 以上の他、各事業別様式において、記入を求められている経営指標その他の項目等については各事業別様式の指示(留意事項)に従うこと。
10. 必要に応じて行を追加して記入すること。

V 繰上償還に伴う経営改革促進効果 (つづき)

2 年度別目標等

(1) 水道事業

① 年度別目標

(単位:百万円、%)

課題	目標又は実績	平成14年度 (計画前5年度) (決算)	平成15年度 (計画前4年度) (決算)	平成16年度 (計画前3年度) (決算)	平成17年度 (計画前々年度) (決算)	平成18年度 (計画前年度) (決算見込)	計画前5年間 実績	平成19年度 (計画初年度)	平成20年度 (計画第2年度)	平成21年度 (計画第3年度)	平成22年度 (計画第4年度)	平成23年度 (計画第5年度)	計画合計
【収入の確保】													
	料金改定率							12.3				10.0	
	改善額(料金の適正化)※1							1.3	1.3	1.3	1.3	2.3	7.5
	未収金の徴収対策												
	改善額												
	一般会計負担金の額								1.8	1.8	1.8	1.8	
	改善額(負担金の確保等)												
	資産の有効活用												
	改善額(収入増額)												
	その他()												
	改善額												
【経費の削減】													
	職員給与費の適正化												
	職員給与費(退職手当以外)	3.6	4.6	5.0	7.8	7.9		8.1	6.1	6.1	6.1	6.1	
	改善額							-0.2	1.8	1.8	1.8	1.8	7
	給与水準	3.6	4.6	5.0	7.8	7.9		8.1	6.1	6.1	6.1	6.1	
	改善額							-0.2	1.8	1.8	1.8	1.8	7
	その他()												
	改善額												
	職員給与費(退職手当)												
	職員数(人)	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	
	増減数(人)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	維持管理費等												
	改善額(適正化)												
	工事コスト※2							1					
	改善額(縮減額)							1					1
	その他()												
	改善額												
	累積欠損金比率												
	増減												
	企業債現在高	656.7	692.0	662.0	626.3	590.0		550.1	507.8	465.5	421.4	376.2	
	増減		35.3	-30.0	-35.7	-36.3		-39.9	-42.3	-42.3	-44.1	-45.2	
	計画前5年間改善額 合計												15.5
	改善額 合計												15
	(参考) 補償金免除額												15

注1 「課題」欄については、「1 主な課題と取組み及び目標」の「課題」欄の番号を記入すること。

注2 ※1「改善額(料金の適正化)」については、「料金改定に伴う料金増収額」を記入すること。

※2「工事コスト」については、工法の見直し等による建設コストの縮減(建設改良費の抑制は除く。)を記入すること。

注3 改善額の算出方法については、IVの当該施策に係る「具体的内容」欄に併せて記入すること。

注4 必要に応じて行を追加して記入すること。また、会計規模により必要に応じて単位を百万円から千円に変更することも可とするが、「改善額合計」を算出する際の単位誤り、誤計上(重複計上等)がないよう留意すること。

② 経営状況

	平成14年度 (計画前5年度) (決算)	平成15年度 (計画前4年度) (決算)	平成16年度 (計画前3年度) (決算)	平成17年度 (計画前々年度) (決算)	平成18年度 (計画前年度) (決算見込)	平成19年度 (計画初年度)	平成20年度 (計画第2年度)	平成21年度 (計画第3年度)	平成22年度 (計画第4年度)	平成23年度 (計画第5年度)
給水人口(人)	1,756	1,696	1,645	1,643	1,588	1,570	1,560	1,550	1,540	1,530
年間総有収水量(m ³)	115,516	111,995	112,622	116,617	110,731	111,000	112,000	113,000	113,000	113,000
公称施設能力(m ³ /日)	1,075	1,075	1,075	1,075	1,075	1,075	1,075	1,075	1,075	1,075
1日最大配水量(m ³ /日)	744	705	704	798	818	820	820	820	820	820
最大稼働率(%)	69.2	65.6	65.5	74.2	76.1	76.3	76.3	76.3	76.3	76.3
供給単価(円/m ³)	214.59	212.8	213.63	205.06	230.63	242.12	238.39	235.4	234.51	243.36
給水原価(円/m ³)	554.44	638.78	644.31	725.21	746.75	753.00	702.12	686.85	692.88	693.91

③ 簡易水道事業の統合に係る基本方針

注 「統合計画の概要・実施スケジュール」又は少なくとも「検討体制・実施スケジュール、検討の方向性、結論をとりまとめる時期」を具体的に記載すること。